

高温薄膜圧電センサ

— 高温配管肉厚モニタリング —



配管の腐食及びエロージョンによる減肉減少は良く知られており、肉厚の監視が重要です。薄膜の超音波圧電センサを配管の肉厚測定ポイントにあらかじめ取り付けしておくことで、運転中の肉厚モニタリングが可能になります。一般的な定点測定と比較すると、同一箇所の連続的な肉厚測定であり、測定位置のずれ等による測定値のばらつきの減少、付帯工事を含む工事費用の削減が期待されます。

特徴

- 高温で危険な環境での肉厚モニタリングが可能
- 薄く、フレキシブルであるため、狭所への適用が可能
- センサの着脱が不要のため、測定値のばらつきの減少
- 保温材の取り外し・復旧、足場の設置・解体等の付帯作業の削減
- 定期検査ごとの測定では掴めない、減肉傾向の把握

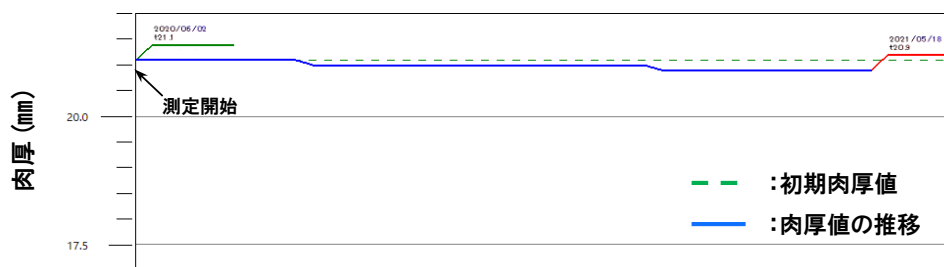
適用

- 材質 : 炭素鋼、ステンレス鋼、低合金鋼等
- 測定対象 : 配管
- 配管径 : 4B~16B (その他は相談可)
- 分解能 : 0.1 mm
- 耐熱温度 : ~ 150 °C (試験体表面温度)
- 耐久性 : 1年間を保証
- 測定下限値 : 3 mm (ケーブル長さ 5m)
4 mm (ケーブル長さ 10m)



パルサーレシーバー

モニタリングデータサンプル



運転期間 (T)

※ センサ及びパルサーレシーバーは株式会社CAST製